

穂小だより



穂別小学校
学校だより
NO.4
H28.6.30

☆学校教育目標☆

- ◎ほがらかな子
- ◎べんきょうをがんばる子
- ◎つよい体と心をもつ子

大きな温かい応援をありがとうございました！

校長 佐々木 俊一



春のやわらかな暖かさが過ぎ、日差しの強さを感じるようになってきました。



さて、今年度の運動会は、雨のため一日順延となりましたが、保護者、地域の皆さんの大きな声援と拍手の応援を受けて、子ども達は大きな頑張りを見せ、怪我無く無事終了することが出来ました。たいへんありがとうございました。

運動会は、1学期の中の大きな学校行事の一つであります。1・2年生は、リズム「ジャンプ!」をとてかわいらしく踊ることができました。3・4年生の「よっちょれ! 2016」は、全員が動きをそろえて、力強い踊りを披露してくれました。5・6年生の「穂別川下り」は、船頭が渡りやすいように背中を平らにしたり素早く前に移動したりと、練習のときから、チームワークを大事にして、取り組んでいました。私は、これらの協力し合う姿に、子どもたちの確実な成長を感じています。

各学年では、この行事や練習を通して、子どもたち一人ひとりに学級への所属感や自己存在感、自己有用感を持たせて、団結力を高め、よりよい学級づくりにつなげています。今後、この力を、学習や生活など他の場面へと広げていってほしいと思います。

今回の運動会も後片付けなど、保護者の皆さんには、子どもたちへの応援の他にもたくさんのご協力、ご支援をいただきました。改めまして感謝申し上げます。

小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業から

昨年度より北海道教育委員会の指定を受け、穂別高校が中心となって、穂別中学校、穂別小学校が「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」に取り組んでいます。6月8日(水)に中学校を会場に、その中の一つの「地域ダイスキ!プロジェクト」の事業として、地域人材を活用した講演会を行いました。講師は、むかわ町国民健康保険穂別診療所 所長 夏目敏彦先生です。

先生は工業高校を卒業され、整備士として働き、整備士の国家試験に合格します。勉強は嫌いだったのですが、自分もやれば出来るかもしれないと思ったそうです。整備士の将来に不安を持った先生は、その後、仕事が出来て、お金がもらえて、勉強が出来るからと准看護婦学校へ進学します。そして、老人病院へ勤め食事のお世話やおむつの交換などをしたそうです。そして、そこでまた、将来の不安から看護師となるために更なる進学をします。そして、ICU(集中治療室)で働きます。そして、いつも部屋の中なので、病院の外で働けないかと考えていたときに、青年海外協力隊の募集を見つけ、2年越しで合格し、南米のポリビア共和国(現ポリビア多民族国家)で働き出します。そこでは、学歴の無さを痛感したそうです。そして学士になるため大学を出ることを決心します。帰国後は、奥さんに働いてもらい、医学部を受験します。1日13時間勉強し、1回目は不合格となりますが2回目の受験で合格します。夏目先生は、「自分で出来ると思うこと。夢を叶えるために計画を立て自分を信じることだ。」と話しておられました。そして、最後にまとめとして、「人生は岐路の連続である。人生は一本道ではない。人生に「もう遅い」と言うことはない。人生は再チャレンジするチャンスがある。人生先のことわからないから楽しい。」と話しておられました。本当に色々な経験を通して得た実感だと思います。本校の子どもたちにも、自分の夢や希望、目標をしっかりと持って、日々その実現に向かって努力させていきたいと思っています。